

大仙市「道の駅かみおか」再整備事業

基本構想



令和 6 年 6 月



大 仙 市

目 次

	ページ
1. 再整備の背景と目的	 1
2. 国における道の駅の目的、基本コンセプト等	 7
3. 現施設の概要、現状と課題	 11
4. 再整備のコンセプトと基本方針	 27
5. 施設機能について	 29
6. 施設整備について	 33
7. 道の駅の機能・施設関連図（イメージ図）	 36
8. 管理運営について	 37
9. 計画への条件整理	 38

1. 再整備の背景と目的

(1) はじめに

本市は、秋田県南西部に位置し北は秋田市、東は仙北市、西は由利本荘市、南は横手市に接しています。また、東北地方を縦断する奥羽山脈に源を発する1級河川雄物川が北西に、また1級河川玉川が南西に流れ、市域の中央で合流し日本海に注ぎ、その2河川沿いには沖積層からなる広大で肥沃な田園地帯が形成されています。

道路網は国道13号が南の横手市から北上して本市に入り、市街地南部から北西に折れて市西部地域を経て秋田市に通じる中軸道路として、市南部から北東部を横断する国道105号と共に、本市の産業経済上重要な役割を担っています。

「道の駅かみおか」は平成8年6月28日に県内7番目、国道13号沿いでは県内初の道の駅として開駅、28年が経過しました。年間約11万人に利用され、本市観光振興の重要な拠点施設となっています。

道の駅は全国で1,213駅(令和6年2月16日現在)となり、平成5年4月の「道の駅」第1回登録で103箇所が誕生してから現在まで、社会情勢の変化やニーズの多様化、秋田自動車道の開通等交通ネットワーク整備の進展のほか、インバウンド需要の高まりなど、「かみおか」を含めた道の駅を取り巻く環境は大きく変化しています。

道の駅が担う「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」、災害時や非常時における「防災機能」は、今後もその役割は増していくものと思料されるほか、現在では、道の駅そのものが観光目的地のひとつであり、『地方創生・観光を加速する拠点』と位置付けられるなど、その重要性もますます高まっています。

こうした背景から、今般、「道の駅かみおか」の施設の魅力や利便性の向上を図り、交流人口の拡大、賑わいの創出に寄与することを目的とした「道の駅かみおか」再整備事業基本構想を策定することとし、今後において本基本構想に基づき、基本計画や基本・実施設計、関係機関との協議等を通じて具現化を進めていきます。

(2) 構想の位置づけ（上位・関連計画等）

上位・関連計画における「道の駅かみおか」の位置付けは以下のとおりです。

① 第2次大仙市総合計画後期実施計画

- ・「第2次大仙市総合計画後期実施計画」は、「前期実施計画（平成28年度～令和元年度）」に続き、令和2年度から令和7年度の6年間であり、基本構想に定める目指すべき将来都市像「人が生き 人が集う 夢のある田園交流都市」を設定し、総合計画で定めている3つの「基本理念」のもと、5つの「施策の柱」に31の「施策の大綱」が紐づき、更に施策の大綱別に「具体的な施策」が紐づいた構成となっています。
- ・本構想では、施策の柱1「魅力ある産業のまちを創ります！」で示されている「1-4 観光の振興」に寄与すべく、魅力ある観光地づくりのための整理や検討を行います。

第2次大仙市総合計画後期実施計画（抜粋）

計画期間	令和2年度～令和7年度	
基本理念	○ 生き生きと生活し働くことのできる活力と創造にみちたまち ○ ともに助け合い支え合う安全・安心のまち ○ 豊かな人材と生活環境が整った魅力あるまち	
施策の柱	施策の大綱	具体的な施策
1. 魅力ある産業のまちを創ります！ ～産業振興・雇用など～	1-1 農林水産業の振興	1-1-1 優れた農畜産物の発信と流通・販売の促進
		1-1-2 大仙市が誇る農畜産物づくり
		1-1-3 担い手の確保・育成
		1-1-4 農村環境と生産条件の整備
		1-1-5 林業・水産業の振興
	1-2 商工業の振興	1-2-1 商業環境整備の支援
		1-2-2 団体・経営者の支援
		1-2-3 地場産業と企業誘致の強化
	1-3 花火産業構想の振興	1-3-1 花火産業構想の推進
	1-4 観光の振興	1-4-1 魅力ある観光地づくり
	1-5 雇用の安定・就労の促進	1-5-1 雇用・就労環境の支援
総合計画の基本施策 (本構想に関する内容)	1. 魅力ある産業のまちを創ります！～産業振興・雇用など～ 1-4 観光の振興 1-4-1 魅力ある観光地づくり 大仙市「道の駅かみおか」再整備事業 ○道の駅かみおか関連施設の魅力アップを図るため再整備を検討	

② 大仙市デジタル田園都市国家構想総合戦略

- ・本市第2期総合戦略は、大仙市総合計画に包含され、大仙市総合計画の中から「人口減少克服・地方創生」の実現のために効果が高く集中的に実施する施策・事業をまとめたものと位置付けるものです。
- ・本構想では、基本目標2の戦略パッケージ（3）具体的な施策①「花火をはじめとする地域資源を活かした観光振興」において挙げられている「観光拠点整備事業」に寄与すべく施設再編に向けた基本構想を策定します。

大仙市デジタル田園都市国家構想総合戦略（抜粋）

計画期間	令和2年度～令和7年度
基本方針	1. 「しごと」を起点とした好循環の確立・推進 2. 人口の社会増対策の推進 3. 人口の自然増対策の推進 4. 持続可能な地域づくりの推進
基本目標	1. だいせんの未来を拓く地域産業の振興と新産業を育むまちづくり 2. 魅力にあふれ愛着と誇りが持てる新たな人の流れを生むまちづくり 3. 結婚・出産の希望をかなえ子育てに喜びと安心を感じられるまちづくり 4. 地域の生活を守り未来につなぐ元気あふれる地域づくり
総合戦略の展開 (本構想に関する内容)	基本目標： 2. 魅力にあふれ愛着と誇りが持てる新たな人の流れを生むまちづくり 戦略パッケージ：（3）観光振興と交流人口の拡大 具体的な施策：①花火をはじめとする地域資源を活かした観光振興 主な事業：観光拠点施設整備事業

③ 第3次大仙市観光振興計画

- ・第3次大仙市観光振興計画は、第2次大仙市総合計画において設定している将来都市像「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」の実現に向け、観光面から推進するため、施策の大綱「観光の振興」及び施策「魅力ある観光地づくり」を具現化する計画として位置付けています。
- ・本構想では基本方針2の重点施策5において挙げられているアクションプラン11.『「道の駅」の機能強化』に寄与すべく施設および駐車場の再整備方針、ゾーニング等を整理し、施設再編に向けた基本構想を策定します。

第3次大仙市観光振興計画（抜粋）

計画期間	令和3年度～令和7年度
基本理念	「大曲の花火」を本市の観光PRに最大限活用し、「花火振興」と「観光コンテンツ」の共創として「観光誘客から観光消費へ」
基本方針	1. 知ってもらおう！（プロモーションの強化） 2. 来てもらおう！（受入れ体制の整備） 3. 満足してもらおう！（観光コンテンツの開発）
振興計画の展開 （本構想に関する内容）	基本方針2. 来てもらおう！（受入れ体制の整備） 重点施策5. 観光拠点の魅力向上 アクションプラン11. 「道の駅」の機能強化 《主な内容》 ①人気道の駅の先行事例調査と情報共有を行う。 ②アンケートや需要調査に基づき、魅力的な売り場づくりを行う。 ③道の駅パンフレットの作成を支援する。 ④道の駅内の観光案内機能の強化を図る。

④ 大仙市公共施設等総合管理計画

- ・本市が所有する公共施設は、800余りとなっており、このうち、ハコモノ（建築物）だけでも600を超え、今後、施設の改修や建て替え、設備機器の更新を実施していく場合、多額の経費が必要になると見込まれます。大仙市公共施設等総合管理計画は、効率的で効果的なマネジメントの実施により質と量の適正化を図り、安心・安全で持続可能な公共施設等の維持を実現することを目的とします。
- ・本構想では、施設類型5 観光施設、5-3道の駅、5-3-1道の駅かみおか「茶屋っこ一里塚」（神岡生産物直売・食材供給施設）において挙げられている基本方針のとおり、道の駅は休憩施設として存続すべき施設であり、継続的に運営する必要があることから、耐用年数までは長寿命化対策を講じ、施設の充実に努め、また、地域の観光拠点としての役割や、災害時の拠点となる役割を担うよう施設再編に向けた基本構想を策定します。

大仙市公共施設等総合管理計画（抜粋）

計画期間	平成２９年度～令和２８年度
目的	効率的で効果的なマネジメントの実施により質と量の適正化を図り、安心・安全で持続可能な公共施設等の維持を実現すること
位置付け	本市の最上位計画である『大仙市総合計画』で取り組むべき政策の一つに位置づけたうえで『行政改革大綱』とも連携を図りながら、全庁横断的に公共施設等の中長期的な整備、更新、維持管理に関わる計画を定めるもの
管理計画の展開 (本構想に関する内容)	基本方針：道の駅は休憩施設として存続すべき施設であり、継続的に運営する必要があることから、耐用年数までは長寿命化対策を講じ、施設の充実に努めていきます。また、地域の観光拠点としての役割や、災害時の拠点となる役割を担うよう検討を進めます。 施設類型５観光施設 ５-３道の駅 ５-３-１道の駅かみおか「茶屋っこ一里塚」 (神岡生産物直売・食材供給施設)

(３) 本構想の位置づけ

- ・本構想は、第２次大仙市総合計画後期実施計画や第２期大仙市デジタル田園都市国家構想総合戦略、第３次大仙市観光振興計画、大仙市公共施設等総合管理計画といった市の上位計画あるいは関連計画に即した構想として位置づけます。
- ・また、本構想は、道の駅リニューアルに伴う再整備の必要性、整備の方針、必要な機能整備、具体的な施設配置等を検討し、今後続く基本設計及び実施設計を行う際の基礎的な条件を示すものとして策定します。

第2次大仙市総合計画後期実施計画

(令和2年度～令和7年度)

「人が生き人が集う夢のある田園交流都市」

～ここをつなぎ希望にみちた未来の創造へ～

総合計画の主要施策

1-4 観光の振興…1-4-1 魅力ある観光地づくり…① 魅力的な観光地づくりの推進

「人口減少抑制・地方創生」実現
のための集中的実施政策

整合を図りながら推進

第2期大仙市デジタル田園都市国家構想総合戦略

(令和2年度～令和7年度)

＜基本目標＞2. 魅力にあふれ愛着と誇りが持てる新たな人の流れを生むまちづくり

＜戦略パッケージ＞(3) 観光振興と交流人口の拡大

＜具体的な施策＞①花火をはじめとする地域資源を活かした観光振興

＜主な事業＞観光拠点施設整備事業

《大仙市「道の駅かみおか」再整備検討事業》

○道の駅かみおか関連施設の魅力アップを図るため再整備を検討

大仙市公共施設等総合管理計画

(平成29年度～令和28年度)

基本方針：地域の観光拠点としての役割
や、災害時の拠点となる役割を
担うよう検討を進める。

＜実施事業＞

「道の駅かみおか」施設再整備事業

第3次大仙市観光振興計画

(令和3年度～令和7年度)

基本方針2. 来てもらう！（受入れ体制の整備）

重点施策5. 観光拠点の魅力向上

アクションプラン11. 「道の駅」の機能強化

＜実施事業＞

「道の駅かみおか」施設再整備事業

大仙市「道の駅かみおか」再整備事業
基本構想・基本計画

2. 国における道の駅の目的、基本コンセプト等

～国土交通省の「道の駅」登録・案内要綱抜粋～

(1) 目的

一定水準以上のサービスを提供できる休憩施設を「道の駅」として登録し広く案内することにより、道路利用者の利便性向上と施設の利用促進を図り、安全で快適な道路交通環境の形成並びに地域の振興に寄与することを目的とする。

(2) 基本コンセプト

「道の駅」とは、地域の創意工夫により道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供する施設で、基本として次に掲げるサービス等を備える施設をいう。

< 設置位置 >

- イ. 休憩施設としての利用しやすさや、「道の駅」相互の機能分担の観点から、適切な位置にあること

< 基本構成 >

- ロ. 休憩目的の利用者が無料で利用できる十分な容量の駐車場と清潔な場所を備えるとともに、それらの施設及び施設間を結ぶ主要な歩行経路のバリアフリー化が図られていること
- ハ. 利用者に多様なサービスを提供する施設であって、道路及び地域に関する情報を提供する案内所または案内コーナーがあるもの（以下「案内・サービス施設」という。）が備わっていること
- ニ. 子育て応援施設として、乳幼児に対する授乳やおむつ交換が可能なスペース（以下「ベビーコーナー」という。）が備わっていること

< 提供サービス >

ホ. 駐車場・便所・電話は24時間利用可能であること。

ヘ. 案内・サービス施設には、原則として案内員を配置し、親切な情報提供がなされること

< 設置者 >

ト. 案内・サービス施設の設置者は市町村又は市町村に代わり得る公的な団体（以下「市町村等」という。）であること

なお、案内・サービス施設の管理または運営を市町村等以外のものが行う場合は、契約等により「道の駅」として必要なサービスが確保されるよう措置されていること

< 配慮事項 >

チ. 女性・年少者・高齢者・身障者・妊婦や乳幼児連れなど様々な人の使いやすさに配慮されていること

リ. 施設計画は景観に十分配慮し、特に景勝地にあつては、地域の優れた景観を損なうことのないよう計画されていること

(3) 道の駅の概要

国土交通省によって登録されている「道の駅」は、令和6年2月16日現在、1,213箇所です。(秋田県内では34箇所)

平成5年2月23日に「道の駅」登録・案内要綱が創設され、同年4月22日全国103箇所が第1回の登録以来30年が経過し、開設当初はドライバーに対する運転時の安全確保のための休憩所としての色合いが強かったが、現在では、地域産業振興のための交流拠点として重視されています。

「道の駅」の目的と機能

「道の駅」の目的

- ・道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・地域の振興に寄与

「道の駅」の機能

休憩機能

- ・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ

情報発信機能

- ・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

地域連携機能

- ・文化共用施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

「道の駅」の基本コンセプト

地域とともに作る
個性豊かな
にぎわいの場



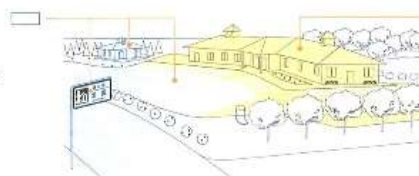
災害時は、防災
機能を発現

1

出典：国土交通省「道の駅」について



駐車場、トイレ、
案内板などの施設
(道路管理者が整備)



文化教養施設、観光レクリ
エーション施設などの地域
振興施設、休憩所、トイレ、
駐車場(市町村等が整備)

7

出典：国土交通省「道の駅イメージ図」

(4)「道の駅」の目指す姿

<「道の駅」のあり方>

第1ステージ(1993年～) 『通過する道路利用者のサービス提供の場』

↓

第2ステージ(2013年～) 『道の駅自体が目的地』

↓

第3ステージ(2020年～2025年)

『地方創生・観光を加速する拠点』

+ ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献

各「道の駅」における自由な発想と地元の熱意の下で、観光や防災など更なる地方創生に向けた取り組みを、官民の力を合わせて加速する。更に、「道の駅」同士や民間企業、道路関係団体等との繋がりを面的に広げることによって、元気に稼ぐ地域経営の拠点として力を高めるとともに、新たな魅力を持つ地域づくりに貢献する。

<2025年に目指す3つの姿>

1. 「道の駅」を世界ブランドへ

多言語対応（外国人観光案内所の認定）、キャッシュレスの導入、海外や観光団体との連携

2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に

地域防災計画に基づいた「災害時の業務継続計画（BCP）」の策定や防災訓練、「防災道の駅制度」の導入

3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに

子育て応援、民間とタイアップした地域活性化プロジェクト、大学等との連携企画の実施



出典：新「道の駅」のあり方検討会 提言

3. 現施設の概要、現状と課題

「道の駅かみおか」は、平成6年度からの神岡町山村振興等農林漁業特別対策事業として整備したもので、「神岡生産物直売・食材供給施設（神岡物産館）」及び「農林水産物処理加工施設」が平成8年度に開設しています。

（1）施設の概要等

- 1) 名 称 大仙市神岡生産物直売・食材供給施設
- 2) 所 在 地 大仙市北檜岡字船戸187番地
- 3) 施設の範囲
 - ① 開 駅 日 平成8年6月28日（※県内7番目、国道13号沿線初）
 - ② 敷地面積 17,456.36㎡
 - ③ 延床面積 481.16㎡
 - ④ 構 造 木造2階建
 - ⑤ 施設・設備の内容
 - ・物産展示コーナー（物産館） ・休憩所 ・トイレ
 - ・食材供給施設（レストラン） ・屋台 ・野菜直売所
 - ⑥ 駐 車 場 普通車37台、大型車14台、障がい者用2台
 - ⑦ そ の 他 隣接地に農林水産物処理加工施設が立地





物産館・レストラン



休憩所・トイレ



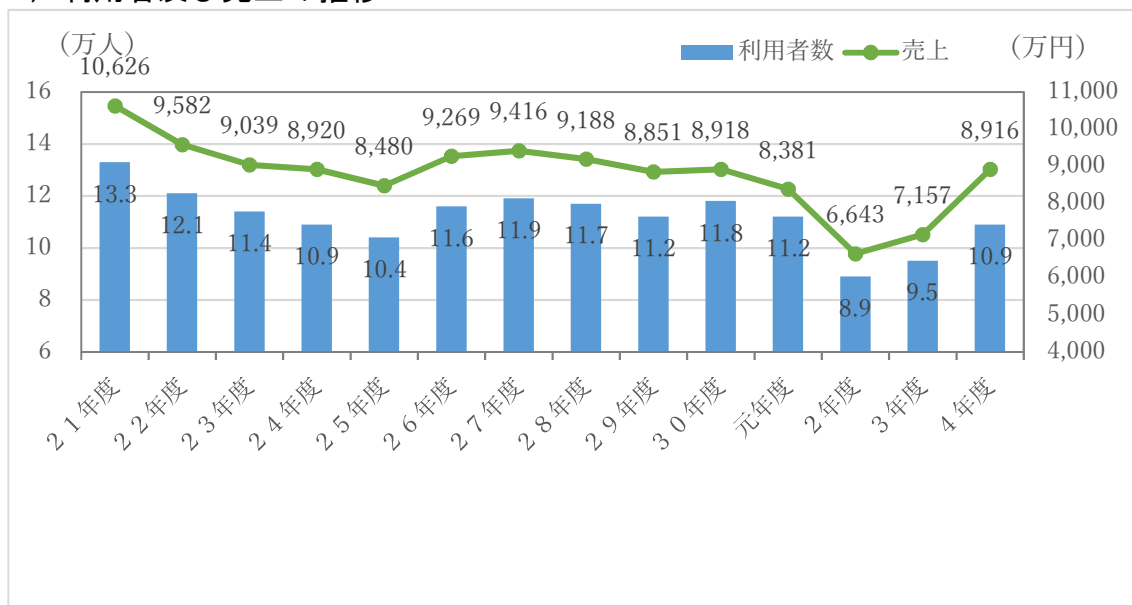
屋 台



野菜直売所

(2) 施設の課題等

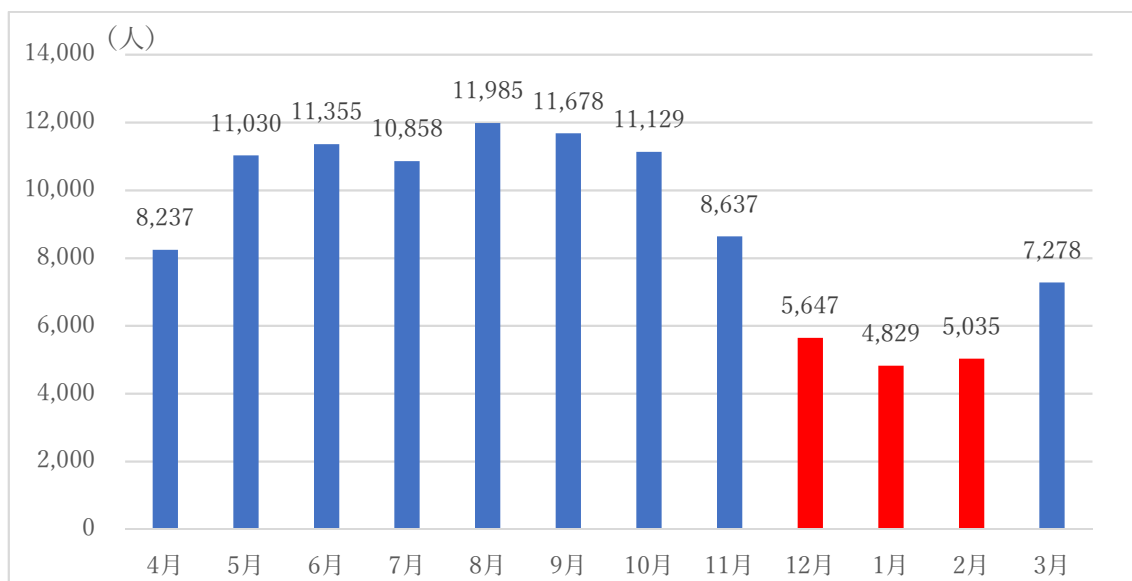
1) 利用者及び売上の推移



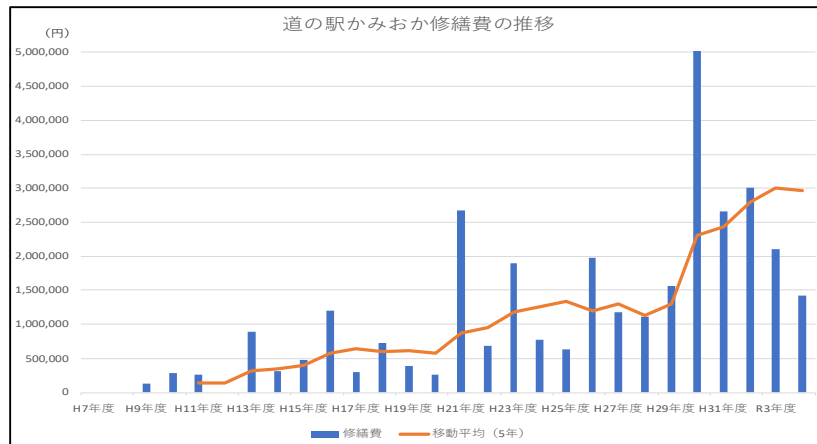
2) 月別利用者数 (H28～R4年度の月平均)

◎利用者数及び売上金額は、東日本大震災による影響(平成23～25年度)、コロナ禍における急激な減少(令和2・3年度)がある中、平成21年度からは総じて緩やかな減少傾向にあります。

◎月別では主に12月から翌2月までの冬期間の集客が課題となっています。



3) 現施設の経年劣化状況、修繕費増加状況



・各施設の「広さ」に関する問いでは、「満足」している割合が野菜直売所では26%と相対的に低く、「やや不満」「不満」に関する回答でも野菜直売所の割合が3割を超える結果となっています。この結果から、野菜直売所が手狭であると感じる利用者が多いことが読み取れます。

【自由意見】

ー売店内通路が狭い。他者とぶつかりやすくゆっくり買い物ができない。(43名)

ー野菜直売所は店内が狭く、ゆっくり買い物ができない。(56名)

ーレストランは、店内が狭い。(14名)

ー屋台は、狭くて混んでいると入れない。(30名)

【入りやすさにつて】

売店

売店については実施せず

野菜直売所

行ラベル	個数 / 問 18	野菜直売所の入りやすさについて
満足	79	39.3%
やや満足	83	41.3%
やや不満	36	17.9%
不満	3	1.5%
(空白)		0.0%
総計	201	

レストラン

行ラベル	個数 / 問 10	レストランの入りやすさについて
満足	85	44.0%
やや満足	76	39.4%
やや不満	25	13.0%
不満	7	3.6%
(空白)		0.0%
総計	193	

屋台

行ラベル	個数 / 問 14	屋台（ファーストフード）の入りやすさについて
満足	91	44.4%
やや満足	87	42.4%
やや不満	25	12.2%
不満	2	1.0%
(空白)		0.0%
総計	205	

◎各施設の「入りやすさ」に関する問いでは、「満足」している割合が野菜直売所では39.3%と相対的に低く、「やや不満」「不満」に関する回答でも野菜直売所の割合が19.4%となっています。この結果から、野菜直売所がやや入りにくいと感じる利用者が少なくないことが読み取れます。

【自由意見】一部再掲

- －売店内通路が狭い。他者とぶつかりやすくゆっくり買い物ができない。(43 名)
- －野菜直売所は店内が狭く、ゆっくり買い物ができない。(56 名)
- －レストランは、店内が狭い。(14 名)
- －屋台は、狭くて混んでいると入れない。(30 名)
- －プレハブではなく、道の駅の中にしてほしい。(3 名)
- －入口とカウンター間が狭く、出入りするのに支障がある。(11 名)

【品揃え（メニュー）について】

売店		
行ラベル	個数 / 問 7	売店の品揃えについて
満足	87	39.4%
やや満足	94	42.5%
やや不満	37	16.7%
不満	3	1.4%
(空白)		0.0%
総計	221	

野菜直売所		
行ラベル	個数 / 問 1 9	野菜直売所の品揃えについて
満足	52	25.9%
やや満足	88	43.8%
やや不満	53	26.4%
不満	8	4.0%
(空白)		0.0%
総計	201	

レストラン		
行ラベル	個数 / 問 1 1	レストランのメニューについて
満足	77	41.2%
やや満足	87	46.5%
やや不満	17	9.1%
不満	6	3.2%
(空白)		0.0%
総計	187	

屋台		
行ラベル	個数 / 問 1 5	屋台（ファーストフード）のメニューについて
満足	91	45.0%
やや満足	88	43.6%
やや不満	23	11.4%
(空白)		0.0%
総計	202	

- ◎各施設の「品揃え（メニュー）」に関する問いでは、「満足」している割合が野菜直売所では 25.9%と相対的に低く、「やや不満」「不満」に関する回答でも野菜直売所の割合が 30%を超えています。この結果から、野菜直売所が品揃えを増やして欲しいと感じる利用者が多いことが読み取れます。
- ◎また、売店についても、18.1%の方が品揃えに関して「やや不満」「不満」があると回答しています。

【自由意見】一部再掲

－売店の品数を増やしてほしい。(44 名)

－野菜直売所の品数を増やしてほしい。(46 名)

－レストランについて、ここにしかない推しのメニューがない。(10 名)

【値段について】

レストラン			屋台		
行ラベル	個数 / 問 1 2	レストランの 値段について	行ラベル	個数 / 問 1 6	屋台（ファーストフード）の値段について
満足	72	38.5%	満足	93	45.8%
やや満足	96	51.3%	やや満足	98	48.3%
やや不満	14	7.5%	やや不満	11	5.4%
不満	5	2.7%	不満	1	0.5%
(空白)		0.0%	(空白)		0.0%
総計	187		総計	203	

・レストランと屋台の「値段」に関する問いでは、総じて「満足」している割合が高く、利用者が納得できる価格帯になっていることが読み取れる。

【駐車場について】

問 2 0 駐車場の広さについて

満足	144	66.7%
やや満足	52	24.1%
やや不満	19	8.8%
不満	1	0.5%
(空白)		
総計	216	

問 2 1 駐車場の一台当たりのスペースについて

満足	167	73.9%
やや満足	49	21.7%
やや不満	10	4.4%
総計	226	

問 2 2 過去に駐車場が満杯で、駐車できないで通り過ぎたことはありますか

ある	38	16.8%
ない	188	83.2%
総計	226	

上記の問 2 2 で「ある」と答えた場合、その時間帯はいつ頃ですか

10時頃	3	7.9%
11時頃	6	15.8%
12時頃	24	63.2%
13時頃	5	13.2%
(空白)		
総計	38	

◎「駐車場」に関する問いでは、総じて「満足」している割合が高くなっているものの、時間帯によっては駐車場が満車で通過したことがある、狭い、建物まで遠いなどの意見も少なくなくい状況となっています。

【自由意見】

- －狭いし、建物から遠い（12名）
- －特に昼食時は混んでいて駐車に一苦労している（3名）
- －大型の駐車場に普通車が駐車していて不便なことがある（2名）

③アンケート自由意見（一部再掲）

○売店

- －品数を増やしてほしい（44名）
- －店内通路が狭く、他利用者とぶつかり易くゆっくり買い物ができない（43名）
- －店内が暗いので明るくしたほうが買い物をしやすい（3名）

○野菜直売所

- －店内が狭く、ゆっくり買い物ができない（56名）
- －もう少し広くして、品数を増やしてほしい（46名）

○レストラン

- －店内が狭い（14名）
- －ここにしかない押しのメニューがない（10名）
- －暗い。中が見えづらくて入りづらい（7名）

○屋台

- －狭くて混んでいると入れない（30名）
- －入口とカウンター間が狭く、出入りするのに支障がある（11名）
- －プレハブではなく、道の駅の中にしてほしい（3名）

○駐車場

- －狭いし、建物から遠い（12名）
- －特に昼食時は混んでいて、駐車するのに一苦労している（3名）
- －大型の駐車場に普通車が駐車されていて不便なことがある（2名）

○その他

- －広場があれば良い
- －子供が遊び回れる場所があれば良い
- －子供と遊び回れる施設があれば通いたいと思う
- －朝の通勤時は駐車場から出にくく（特に大曲方向へ右折）、信号があれば良い

5)「道の駅かみおか」従業員意見調査

①調査概要

- ・実施期間：令和3年6月8日～6月30日
- ・対象：道の駅従業員（駅長含む）13人
- ・内容：施設等の現状・改善点、その他課題、集客・売り上げアップのためのアイデア

②主な意見

◎現状、課題等

- ・施設・設備等の老朽化や破損に関する意見（多数）
- ・駐車場から売店・レストランまで遠い
- ・駐車場出口で左折車と右折車が並ぶと、見通しが悪く危険
- ・屋台付近の段差が危険
- ・国道沿いに、道の駅の看板やのぼり等があった方がよい
- ・売店の販売スペースや通路が狭い
- ・時間帯によっては人手が足りない
- ・建物内が暗い
- ・コロナの影響で団体客が減っている
- ・野菜直売所との連携
- ・コロナ対策（パーテーション、セルフレジ等の設置）
- ・目新しさが少ない

◎アイデア

- ・地元の野菜・果物・お菓子を置くスペースを設置
- ・屋内イベントスペースの設置
- ・レストラン・屋台市場を統一する
- ・ペットと過ごせるスペースを設置
- ・付帯施設の充実（子どもの遊び場、体験工房、足湯、ドッグラン等）
- ・バス停の設置
- ・ポイントカードの発行
- ・商品やメニューの開発
- ・イベント開催（フリーマーケット、朝市、夕方や夜のイベント等）
- ・SNSの活用

6) 神岡地域協議会ワークショップでの意見集約

①ワークショップ概要

- ・開催日時：令和4年9月22日 他2回開催
- ・対象：神岡地域協議会委員・平和中学校生徒
- ・内容：中学生と考える神岡の未来
「道の駅かみおかを拠点としたまちづくりを考える」

②「道の駅かみおか茶屋っこ一里塚」に行ってみて

【長所】

- ・目の前に一里塚がある（歴史的価値）
- ・外観がおしゃれ（建物）
- ・味どうらくソフトがおいしい
- ・地域の端にあるが他地域からアクセスしやすい
- ・トイレがきれい（新しい）
- ・直売所などがあり、野菜が充実している

【短所】

- ・駐車場が狭い（逆に広いという意見も）
- ・建物が道路から見えづらい。導線がちぐはぐ
- ・売店の通路が狭い
- ・お土産スペースが地域産物との区別がない
- ・売店が暗い（明るい道の駅に）
- ・2階がうまく使われていない（レストランだったが）

【その他】

- ・店内が閑散とした雰囲気
- ・国道から出入りしやすい道の駅であってほしい
- ・外にある食堂と直売所、中にある売店食堂との一体感がない（建物の一体感が欲しい）
- ・少年野球発祥の地とモニュメントがあったが場所が悪く気づかない
- ・一里塚のアピールが足りない（他の木が大きくなり目立たない）
- ・駐車場からの歩道にアーケードが欲しい
- ・国道からの出入り口に信号が欲しい
- ・環境にやさしい道の駅に（かつてはソーラーパネルが設置されていた）

③「道の駅かみおか茶屋っこ一里塚」の集客アイデアとして

【施設の充実】

- ・ドックランスペース
- ・車中泊設備
- ・シンボルモニュメントの復活
- ・イルミネーション
- ・コインシャワー
- ・テントサイト
- ・神岡アーカイブ資料館の隣接
- ・ファーストフードやコンビニ

【産業振興も兼ねて】

- ・野菜直売所充実して欲しい
- ・誰でも気軽に野菜を持ち寄れるように
- ・地元のものを使った食品メニュー開発
- ・野菜のコーナーをつくる（現状は仮設的に取り扱われている）
- ・大農の生徒とのコラボ
- ・いものこなど地元生産物を使った目玉商品が欲しい

④「道の駅かみおか茶屋っこ一里塚」を地域づくりの拠点に

【外出のきっかけ、集いの場として】

- ・若い人向けの何かが欲しい
- ・子どもたちが遊べるスペース
- ・夕方以後の交流・集いの場など
- ・スポーツ・バスケができるスペース
- ・ドライブシアター
- ・体操サロン
- ・単発ではないイベント
- ・五城目の朝市的なもの
- ・遊べる場が欲しい（遊具、運動、水遊び、公園、ゲームセンター）
- ・バス停の設置（地域の人のために巡回バスや乗合タクシー）

【その他】

- ・避難所としての対応（災害時無料使用できる自販機があれば良い）

7) 近隣類似施設について

近隣の道の駅比較

区 分	かみおか	なかせん	協和	美郷
開駅日	H8.6.28	H9.10.6	H17.2.10	H16.10.5
施設面積 (地域特産品販売施設、レストラン等)	481 m ²	1,246 m ²	789 m ²	810 m ²
集会施設等	なし	情報センター 斉内川河川敷	陶芸体験施設 グランドゴルフ場	アウトドア専門店
普通駐車場台数	37 台	71 台	121 台	97 台

◎近隣の道の駅と比較して、施設面積並びに普通車通車場台数も少ない。

近隣野菜直売施設比較

区 分	かみおか 野菜直売所	大綱の里 直売所	しゅしゅえっと まるしえ
地域	神岡	西仙北	大曲
開設日	H19.4.30	H15.9.19 (R4.6.1 リニューアル)	H29.6.24
施設面積	24 m ²	69 m ²	471 m ²
運営管理者	神岡ふるさと 振興公社 JA 秋田おぼこ神岡 野菜直売所連絡会	西仙北地域産物展示販売 施設協議会 株式会社マルシメ	J A 秋田おぼこ
普通駐車場台数	37 台	10 台	154 台

◎近隣の野菜直売所と比較して、施設面積は極小規模である。

8) 他の「道の駅」の視察結果（成功要因の分析等）

① 道の駅十文字

≪施設関係（ハード面）≫

- ・「充実した産直コーナー」、「豊富なメニューを提供する飲食コーナー」、「トイレとホールが中央に配置された構造」、「広い駐車場」などが強みと分析。

- ・産直コーナー／広く、天井も高く、照明も明るい購買意欲をそそる環境。
- ・商品棚／高齢者でも手に取りやすい低めの高さ設定。見た目もきれいな印象。
- ・通路／人が2人交差できる幅設定。混雑時でも渋滞が発生しない仕組み。
- ・トイレ／便器も多く、団体客が訪れても混雑しない広さ。
- ・駐車場／広くフラットで入口にも近く、高齢者・障がい者も入りやすい環境。

《運営関係（ソフト面）》

- ・産直コーナー／フルーツや野菜が人気。種類も豊富で、品質も良く、価格もスーパーより安めの設定。（視察時）
- ・利用者／主に地元住民や県内客が中心という印象。（視察時）
- ・産直部門／多くの契約生産者の確保による年間を通じた豊富な品揃え、品薄となった際に生産者へ通知するシステムの構築。（聴き取り）

② 道の駅 うご 「端縫いの郷」

《施設関係（ハード面）》

- ・「充実した産直コーナー」、「名物のそばを中心とした飲食コーナー」、「トイレとホールが中央に配置された構造」、「広い駐車場」などが強みと分析。また、フードコート出口付近へのジェラートコーナーの配置も成功要因のひとつと分析。（食後のデザート需要の取り込み）
- ・トイレ／比較的コンパクト。キレイな印象。
- ・産直コーナー／広さは比較的コンパクト。天井が高く、照明も明るく、雰囲気が良い印象。陳列棚も低く、統一感があり、高齢者も買い物しやすい環境。
- ・駐車場／広くフラットで入口にも近く、高齢者・障がい者も入りやすい環境。

《運営関係（ソフト面）》

- ・利用者／主に地元住民や県内客が中心という印象。（視察時）
- ・フードコート／回転の速いそばが中心。そばの種類・サイズを注文し、トッピングはセルフで選択するスタイル。ユーザーに選択の楽しさを提供しつつ、人

員を抑えられる方式。また、天ぷら・惣菜などのトッピングは、2つ、3つ取りたくなるメニューとし、結果として客単価が上がる仕組みを構築。

- ・産直コーナー／フルーツや野菜が人気。質・量・種類ともに十分な印象。オリジナルの弁当やおにぎり、惣菜も多く陳列。また、地元企業が作った産品も多く、地元にお金が落ちる工夫が印象的。

9)「道の駅かみおか茶屋っこ一里塚」周辺の主な地域資源

① 特産品・特色ある産品等

- ・米、日本酒、味どうらくの里、俵あげまん、酒まんじゅう
- ・K O J I C L E A R（糀ドリンク）

② 観光施設・スポーツ施設・温泉・自然・文化財等

- ・かみおか温泉「嶽の湯」
- ・屋内多目的施設「嶽ドーム」、多目的学習施設「かみおか嶽雄館」、神岡野球場
- ・神岡中央公園、中川原コミュニティ公園、笹倉公園、羽黒山いこいの森公園
- ・神宮寺嶽、真木真昼県立自然公園、八乙女公園、白糸の滝
- ・旧池田氏庭園、払田柵跡、旧本郷家住宅、唐松神社
- ・法隆寺金堂壁画模写、檜岡焼 等

③ 行催事

- ・全県500歳野球大会、全国500歳野球大会、全県550歳野球大会
- ・全国花火競技大会「大曲の花火」、神岡南外花火大会
- ・神宮寺八幡神社祭典、嶽六所神社奉納梵天
- ・秋田飴売り節全国大会
- ・刈和野の大綱引き、ふるさと西仙まつり、ドンパン祭り、
太田の火まつり、旧池田氏庭園イルミネーションライトアップ

④ その他神岡地域の特色・歴史等

- ・秋田県少年野球発祥の地、500歳野球発祥の地

10)「道の駅かみおか」を地域づくりの拠点に

- ・道の駅かみおかの利用者数は平成21年度以降総じて減少傾向にあります。
利用者アンケートを見ると観光客や圏外からの利用者がほとんどであり、圏域内市民の利用者は多くない状況にあります。
- ・神岡地域協議会ワークショップの意見集約結果にもあるとおり、道の駅かみおかの利用者の増加あるいは掘り起こしには、地元市民（特に子育て世代）の日常的な利用が重要であり、地元市民が気軽に利用でき、外出のきっかけや交流が生まれる場として、さらには地域づくりに資する拠点としての機能が求められています。

(3) 課題の整理

1) 施設の経年劣化に伴う修繕経費等の増加

平成8年6月28日に開設して以来28年が経過し、経年劣化に係る施設・設備の修繕費や更新経費が増加傾向にあります。施設運営に不可欠な空調設備や浄化槽等の機械設備は随時修繕や更新を繰り返してきましたが、外壁や屋根塗装等の更新は進まず劣化が顕著となっており、施設の再整備が求められています。

2) 売店・レストラン・屋台・野菜直売所の店舗面積不足（販売商品の増強含む）

利用者アンケート結果を見ると、広さについては売店、野菜直売所、レストラン、屋台とも「満足」が5割を下回り、特に野菜直売所が26.0%、売店が36.2%と低い状況となっています。また、品揃え（メニュー）の「満足」についても野菜直売所が25.9%、売店が39.4%と低く、現店舗面積の狭さがそのまま品揃えの不満につながっており、需要に見合った店舗面積の拡大が求められています。

3) 昼食時やイベント開催時の駐車スペース不足

道の駅かみおかの駐車台数は、普通車 37 台、大型車 14 台、障がい者用 2 台計 53 台となっており、大仙市内の他道の駅や近隣の道の駅（美郷：普通車 97 台、大型車 21 台、障がい者用 3 台）と比較しても大幅に少ない状況にあります。利用者アンケートでも、時間帯によっては「駐車場が満車で通過したことがある」、「狭い」、「建物まで遠い」などの意見も多数寄せられており、駐車スペースの拡大が求められています。

4) 利用者数の減少

県内人口の減少等の影響もあり、利用者数は平成 21 年度から総じて減少傾向にあります。特に 12 月～2 月の冬期間が少なく、地元市民の利用についても少ない状況にあります。利用者数の増加を図るには、観光来訪者や国道利用者のみならず、地元市民からの利用が重要となっており、地元住民、特に子育て世代の皆様が気軽に利用でき、交流が生まれる場、さらには、地域づくりのための拠点整備が求められています。

4. 再整備のコンセプトと基本方針

平成8年6月に開設した「道の駅かみおか茶屋っこ一里塚」は、『通過する道路利用者のサービス提供の場（第1ステージ）』づくりを主な目的として整備された道の駅であり、これまでもその目的に適う運営を行ってまいりました。

しかしながら、前記のとおり、「道の駅」のあり方も時代とともに変化しており、現在の整備目的である『地方創生・観光を加速する拠点(第3ステージ)』への対応については、施設の規模や機能等の面からも実現には至っていない状況となっています。

今後の「道の駅かみおか」の再整備にあたっては、この『地方創生・観光を加速する拠点』づくりを念頭に、前記の課題等を踏まえた基本コンセプトを掲げ、同施設が立地する神岡地域のみならず大仙市全体の様々な魅力を発信し、訪れる方からその魅力を体験していただける、多くの方々が訪れたいとする施設を目指すとともに、地元市民や地域と連携・交流できる場所、まちづくりとも連携した地域振興のための拠点となる施設を目指すこととします。

【基本コンセプト】

Experience 大仙！
～ 大仙を体験！～

【基本方針】

- (1)本市の産品の魅力を広く発信し、その魅力を「体験(味わう)」できる場とします
- (2)本市の観光・歴史・文化を「体験(観る)」していただく機会を創出する場とします
- (3)市民が集まり、地域の交流が生まれる「体験(ふれあう)」の場とします
- (4)誰もが安全・安心して訪れ、快適に「体験(過ごす)」できる場とします

(1)本市の産品の魅力を広く発信し、その魅力を「体験(味わう)」できる場とします

本市の魅力的な地場産品を広く発信する施設として、また、その産品を実際に味わい良さを知っていただける大仙市を体験できる施設を目指して、ハード・ソフトの両面から再整備を図ります。

(2)本市の観光・歴史・文化を「体験(観る)」していただく機会を創出する場とします

本市が誇る文化財や行催事をはじめとした魅力ある観光資源等を広く発信し、内外から訪れる方々がその資源を観て、触れて、参加できる機会を創出する観光情報発信施設を目指して、ハード・ソフトの両面から再整備を図ります。

(3)市民が集まり、地域の交流が生まれる「体験(ふれあう)」の場とします

市民のコミュニティ活動や地域交流ができる施設として、また、観光客との滞在交流ができる交流促進・地域連携施設を目指して、ハード・ソフトの両面から再整備を図ります。

(4)誰もが安全・安心して訪れ、快適に「体験(過ごす)」できる場とします

季節や時間帯にかかわらず、こどもや高齢者、障がいをお持ちの方など誰もが安全に安心して来訪でき、快適に過ごすことができるインクルーシブな施設を目指して、ハード・ソフトの両面から再整備を図ります。

5. 施設機能について

基本コンセプトを念頭に、基本方針に基づいた具体的な施設機能として、「休憩機能（食事、駐車場、トイレ等）」と「地域振興機能（物産等販売機能、農水産物加工機能、情報発信機能、地域連携機能等）」の2つの機能を中心に、ハード・ソフト両面から導入を検討します。

（１）休憩機能（食事・駐車場・トイレ等）

① 食事

- イ 本市産品を活用したメニューを提供し美味しさを体験していただきます。
（味どうらく、杜仲豚、いぶりがっこ、ソーセージ、コーヒー等）
- ロ 地元産を主体とした食材でメニュー化を図り、年間を通して旬の食事を提供します。（地元特別栽培米、あきた伝統野菜、山菜、ジビエ等）
- ハ 本市で親しまれている地元メニューや郷土料理などを提供します。
（カレー温麺、納豆汁、川かにみそ 等）
- ニ 市内菓子店の自慢の一品や地元産品を用いたスイーツやドリンクのメニュー化を図り、定期的に商品を入れ替えながら提供します。（味どうらくソフト、コーヒー、糰ドリンク等）
- ホ 地酒の試飲コーナーの充実として、大仙市の酒蔵の各種銘柄を用意し、定期的に銘柄を入れ替えながら提供します。
- ヘ 食事提供の際に橿岡焼等地元工芸品に盛り付けを行うなど、食事だけではなく地元工芸品の魅力についても発信します。

② 駐車場

- イ 交通量や商圈人口に基づく必要駐車場台数に加え、昼食の時間帯やイベント開催時などの混雑状況等を勘案した利用ニーズに適う駐車台数の確保を検討します。

- ロ スムーズな車両の乗り入れ、大型車と一般車の適正な区画配置、建物等との段差解消、駐車場・建物間の往来しやすい導線確保などに配慮した整備を検討します。

③ トイレ

- イ 利用者ニーズ等を考慮した規模や機能について検討します。
- ロ 駐車場からの導線、休憩機能・地域振興機能と有機的な連携が可能になる道の駅全体としての集客に資する望ましい配置について検討します。

④ その他

- イ 道の駅の利用者のニーズに対応したE V充電設備の設置を検討します。
- ロ イベントや繁忙期の大型観光バスの駐車場、災害時の避難場所として活用できる多目的広場等オープンスペースの設置を検討します。

(2) 地域振興機能（物産等販売・加工施設・情報発信・地域等連携等）

① 物産等販売

- イ 交通量や商圈人口に基づく必要な売場面積を確保します。
- ロ 土産品だけでなく、地元市民が日常的に立ち寄り購入できる商品の充実を図り、観光客からも、地元市民からも愛される売り場を目指します。
(観光と日常のハイブリッド経営)
- ハ 地元農家等が作った野菜や、地元産オリジナル弁当・惣菜等の販売コーナーを設置するなど、地域の多くの生産者が参加し多彩な製品を取りそろえることにより通年で商品が豊富な魅力的な売り場を構築します。
- ニ 良質な農産物や特産品、工芸品の情報発信・販売により地域の産業振興につなげます。(地元特別栽培米、あきた伝統野菜、山菜、漬物、檜岡焼等)

ホ これまで規格外で販売しなかった農産物の商品化を促進します。

② 加工施設

イ 収益性が高い農産加工品の充実として、加工所との連携強化を図り、地元産品に付加価値を持たせた加工品等の製造・販売を推進します。

ロ 大仙ブランドの育成と地域経済の活性化を図るため、地域の６次産業の推進として、新たな加工品の開発に取り組みます。

③ 情報発信

イ 国道１３号等の主要幹線道路の交通情報とともに、シティセールスの場合として、大仙市全体の観光情報、イベント情報等の提供を強化します。

ロ 道の駅かみおか周辺の観光資源についても積極的に情報発信を行い、本施設利用者の増加と市全体の交流人口の拡大につなげます。

ハ 現在のデジタル技術の急速な進展を踏まえ、デジタル媒体を積極的に活用した情報発信を推進します。

ニ 最近のインバウンドの増加に対応していくため、多言語に対応した情報発信、施設内掲示について取り組みます。

④ 地域等連携

イ 施設の再整備にあたっては、例えば県南道の駅物産展やフリーマーケット、各種団体によるイベント等の開催を予め見込んだ天候に大きく左右されない施設機能・配置を検討します。

ロ 地域住民のコミュニティの場や観光客との滞在交流の場としての機能を設けます。

ハ 既存民間企業と連携した利用ができるよう整備します。

ニ 神宮寺嶽や鳥海山も眺望でき、人々が気軽に一里塚や長沼の史跡や自然

を体感することができる施設（親水公園・散策路等）の整備により、観光客の集客につなげます。

（３）その他の機能

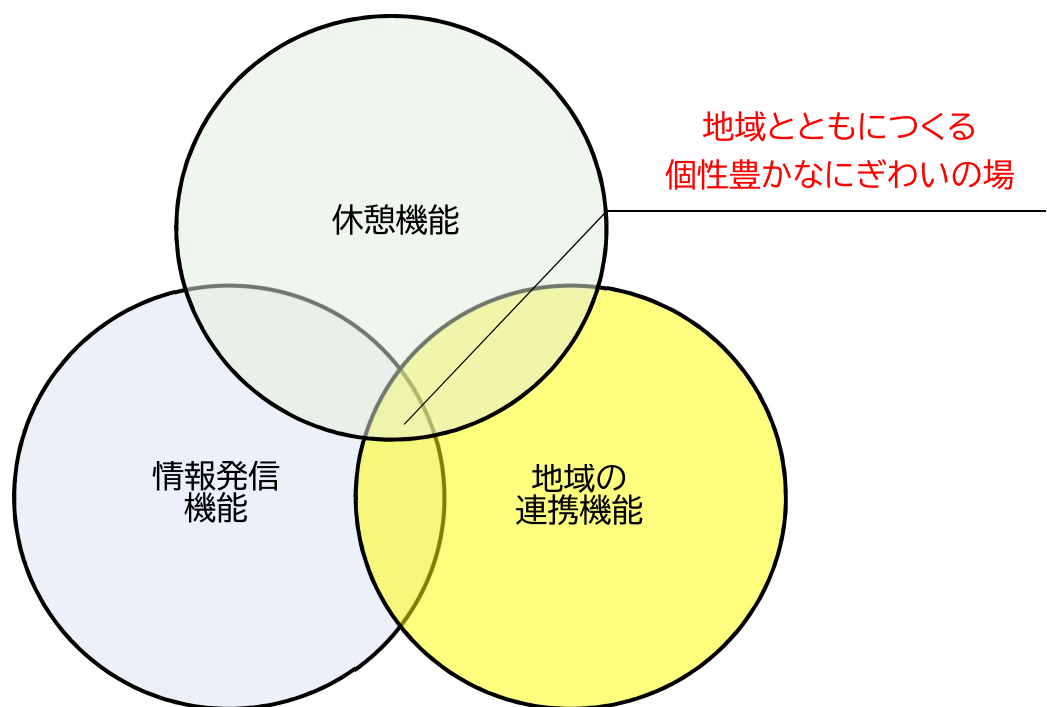
① 防災機能

イ 本市の地域防災計画との整合性を図り、本市における防災拠点の１つとしての位置付けになるよう検討します。

② その他の付加価値機能について

イ 自由に利用できるスペースとイベント展示等ができる多目的ホールとして「地域拠点コミュニティセンター」機能の設置について検討します。

ハ その他付加価値機能については、今後、整備を具体化する中で全体規模や配置を見ながら改めて検討します。



6. 施設整備等について

前記の基本方針や施設機能等を踏まえ施設の再整備方針等を次のとおり整理します。

(1) 整備方針

① 休憩施設や地域振興施設等について

- ・基本方針に基づく「休憩機能（食事、駐車場、トイレ等）」と「地域振興機能（物産等販売機能、農水産物加工機能、情報発信機能、地域連携機能等）」が、その機能を最大限発揮できるような施設の規模・配置を検討します。
- ・施設の規模は、現施設が手狭で、現在の「道の駅」の整備目的である『地方創生・観光を加速する拠点(第3ステージ)』への対応が困難であることから、当該目的を実現する上で必要となる機能を考慮した規模となるよう検討します。
- ・施設の配置は、人の流れを考慮しつつ、休憩施設や地域振興施設等が有機的に連携し相乗効果が発現できるような整備を検討します。
- ・こどもや高齢者、障がいをお持ちの方など誰もが安全に安心して来訪でき、快適に過ごすことができるインクルーシブな施設整備を検討します。

② 駐車場について

- ・交通量や商圈人口に基づく必要駐車場台数に加え、時間帯・イベント開催時などの混雑状況を勘案した利用ニーズに適う駐車台数の確保を検討します。
- ・スムーズな車両の乗り入れ、大型車と一般車の適正な配置、建物等との段差解消、駐車場・建物間の往来しやすい導線確保などに配慮した整備を検討します。

③ 周辺環境等への配慮

- ・県指定文化財である「一里塚」、長沼公園等の景観を損なうことのないよう整備します。

(2) 整備手法

- ① 市の財政負担等を勘案し、道路管理者である国と市が協力して共同で整備する「一体型」の整備手法の実現に向けて、今後、道路管理者等の関係機関との調整を進めていきます。

注) 一体型：市町村等が整備する地域振興施設等（物販等販売施設、地域等連携施設等）と道路管理者が整備する駐車場等が一体となって「道の駅」になるもの

- ② 整備の財源は、国庫補助金（「道の駅」支援関係）や起債などできるだけ有利な財源の活用を検討します。

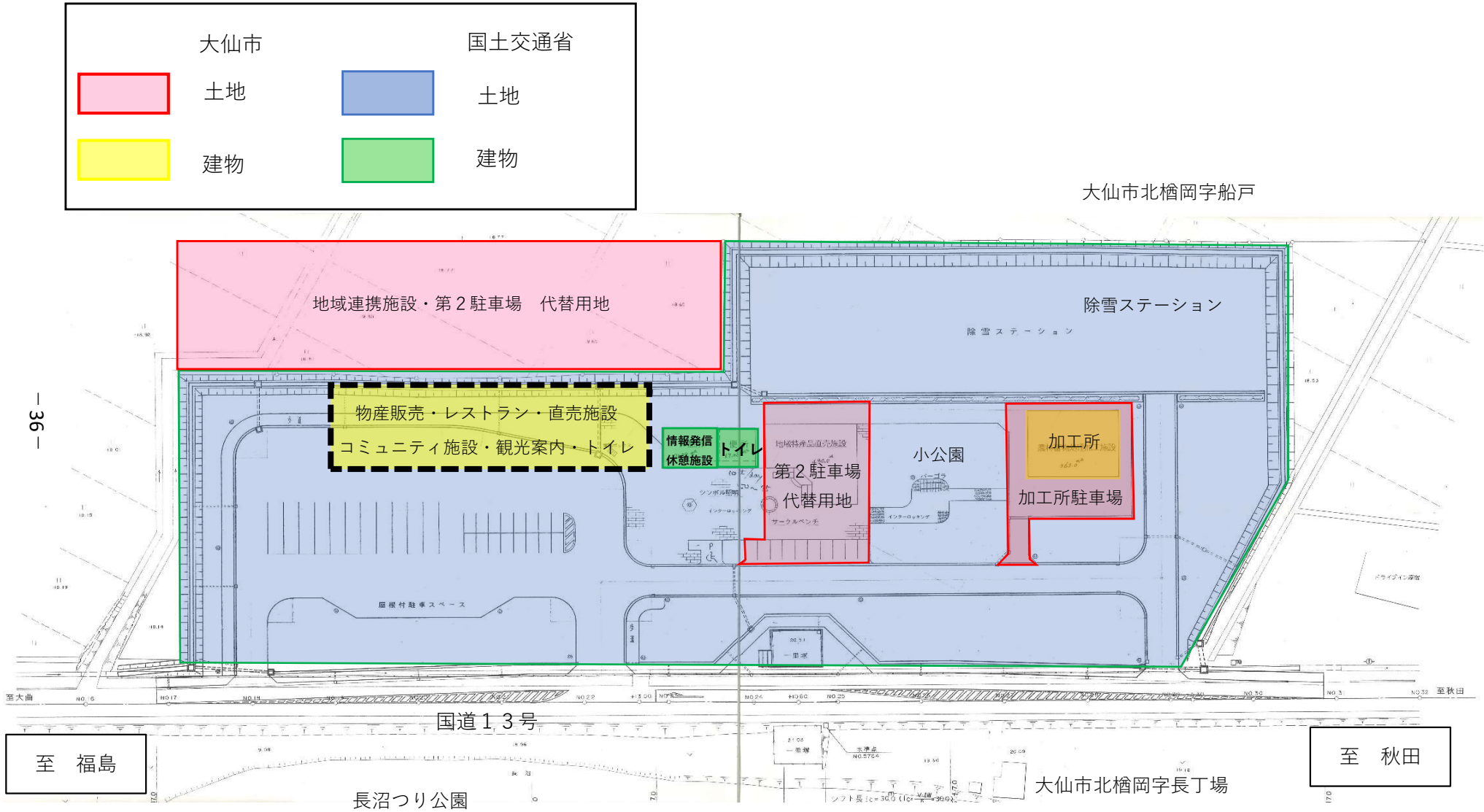
(3) 道路管理者と大仙市との整備分担

一体型で整備する場合、導入施設別の整備主体は、以下のように考えられます。

整備検討施設		想定される整備主体	
		大仙市	道路管理者
地域連携施設	物産等販売施設	○	
	レストラン	○	
	屋台（フードコート）	○	
	農産物直売所	○	
	農林水産物加工所	○	
	コミュニティ施設（会議室等）	○	
	駐車場	○	
	トイレ	○	
休憩施設	駐車場		○
	トイレ		○
情報発信施設	道路情報案内		○
	地域情報案内	○	
その他	広場・公園	△＊	△＊
	その他付帯施設	○	
	防災機能	△＊	△＊

＊ 道路管理者と連携し、それぞれ必要な施設等を整備する手法の場合

7. 道の駅かみおかの機能・施設関連図（イメージ図）



8. 管理運営について

(1) 管理運営の状況

No.	施設名	供用開始	運 営	施設概要
1	神岡物産館	H8.6	指定管理	・物産展示コーナー（売店） ・食材供給施設（レストラン）
2	屋台市場	H13.6	指定管理	・ソフトクリーム・軽食等の飲食 ・H19.5 飲食スペース増床
3	農産物直売所	H19.5	民営（JA 秋田 おばこ婦人部）	・地元野菜の直売 ・H19.5 屋台市場から分離独立
4	情報発信 休憩施設	H8.6	管理委託	・情報発信コーナー ・休憩スペース ・防災倉庫
5	トイレ	H8.6	管理委託	・男性用トイレ（大3、小4） ・女性用トイレ（洋5） ・多目的トイレ 1箇所
6	駐車場	H8.6	国土交通省	・駐車台数53台（大型車14台、普通車37台、障がい者専用2台）
7	旧神岡農林水産物処理加工施設	H8.7	民営（普通財産貸与）・	・地場農林水産物を原料とした付加価値の高い特産物の開発・製造 ・H8～H17 JA 秋田おばこ、H18～H30 利用組合運営 ・R4.4月～民間企業へ有償貸付

(2) 再整備後の管理運営の方向性

- ① 道の駅は、公益性と収益性の両方を併せ持つ施設であり、収益性・採算性を確保しつつ、公益的な役割（情報発信、交流の促進、防災拠点等）を実現するため、効果的な事業展開ができるような体制を構築します。
- ② より効果的な事業展開により、快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供するため、民間企業との連携も強化していきます。
- ③ SDGs（持続可能な開発目標）の理念に基づき、こどもや高齢者、障がい者等を含め誰もが安全に安心して利用できるインクルーシブな道の駅として環境整備を図ります。

9. 基本計画への条件整理

本基本構想を踏まえ、施設の機能や規模、配置、事業費等の整備に係る具体的事項について検討し、今後、以下の点について留意しながら、基本計画等において明確化していくこととします。

(1) 交通について

- ① 国道13号等の交通量や将来の利用者ニーズに見合う駐車場や地域連携施設の敷地面積を計画すること。
- ② 大型観光バスや大型車の進入が容易であり、十分な駐車場を確保するように計画すること。
- ③ 国道13号からの出入口については、基本設計において道路管理者及び警察との協議も踏まえた計画すること。

(2) 施設について

- ① 投資効果を検証するためにマーケティング調査等を行い、駐車場規模、想定利用者数の算定結果をもとに、施設の適正規模を算出すること。
- ② 国道13号等の通行車両から本施設の存在がわかりやすく、また、アクセスしやすい計画とすること。
- ③ にぎわいを生み出す施設（スペース）を設け、来場者が利用しやすく交流の場となる計画とすること。
- ④ 地域の既存施設、観光資源や産業等との連携を考慮した計画とすること。

(3) 財源について

- ① 財源の確保にあたっては、各種補助金等の活用を検討すること。

(4) 推進体制について

- ① 大仙市にとって重要な施策として位置づけ、全庁的な推進体制のもと取り組みを進めます。
- ② 「道の駅かみおか」がより魅力的で愛される施設となるためには、行政における取り組みはもとより、地域の方々の力が不可欠です。事業の推進にあたっては、地域の方々の機運づくりや参加意識の向上を図り、推進力となっていいただけるような体制づくりを目指します。